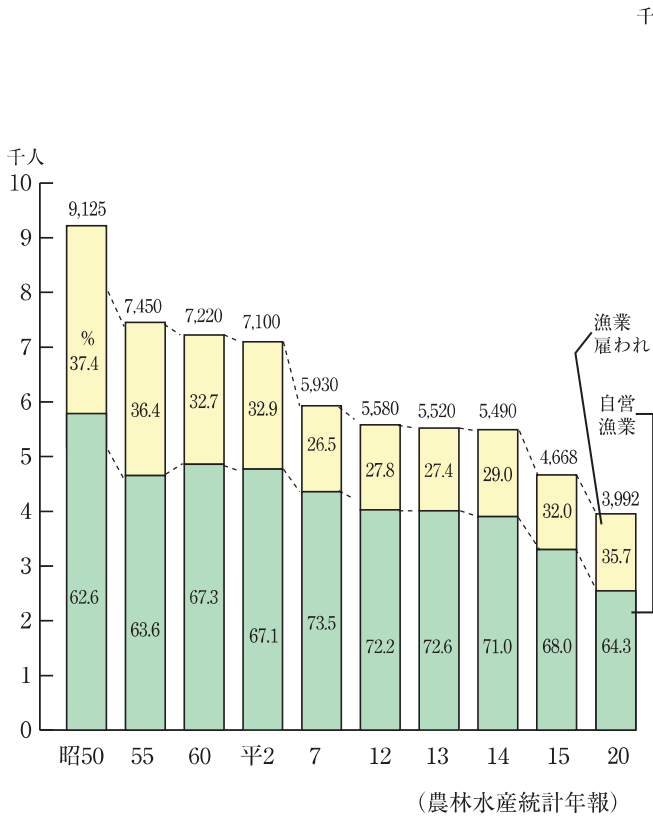


3 水産部門

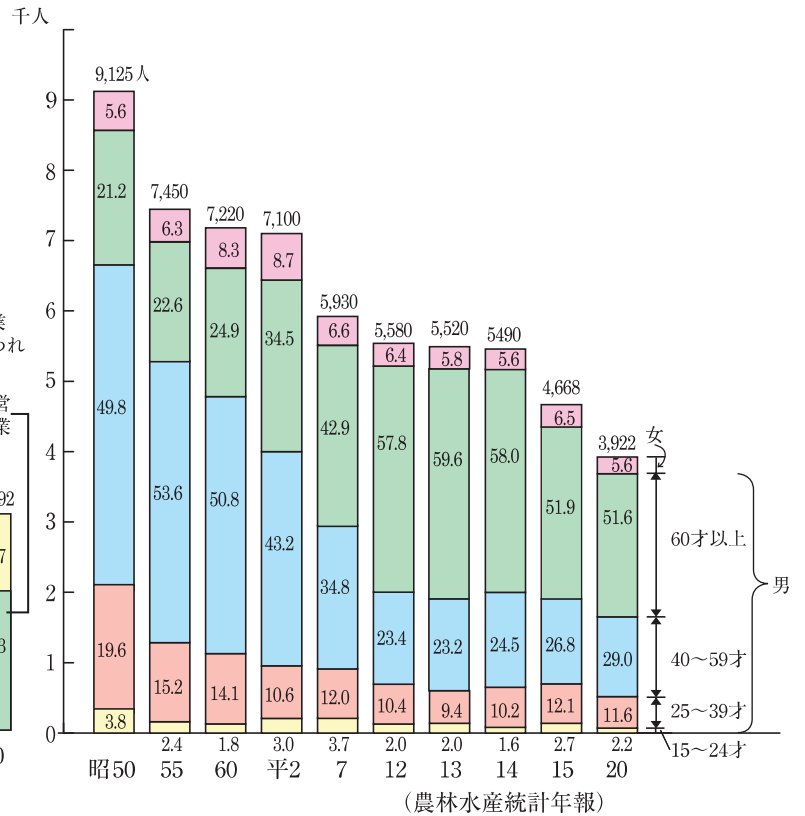
1) 水産業を担う人々

漁業就業者数は減少傾向で推移しており平成20年は3,922人である。
 また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が51.6%を占め高齢化が進んでいる。

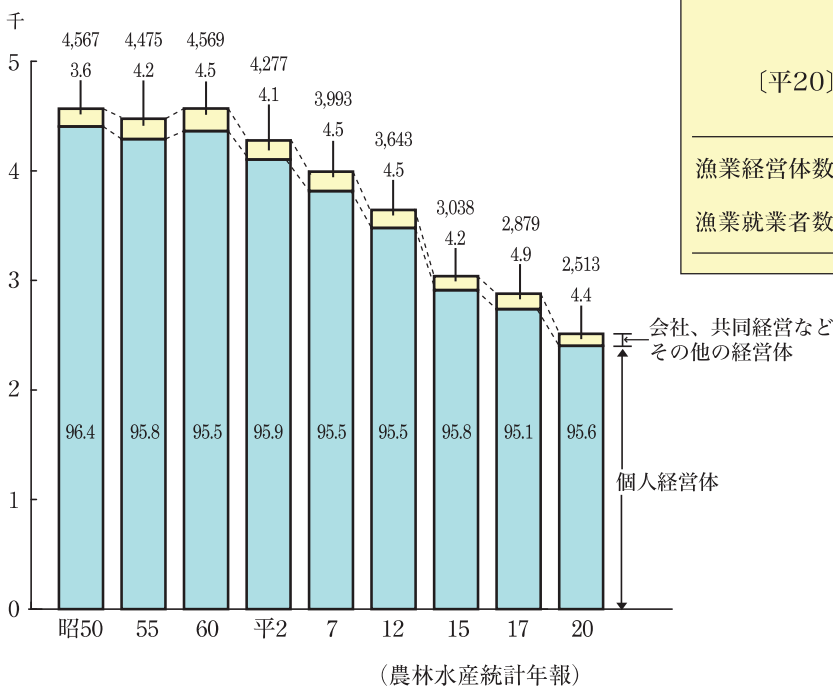
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



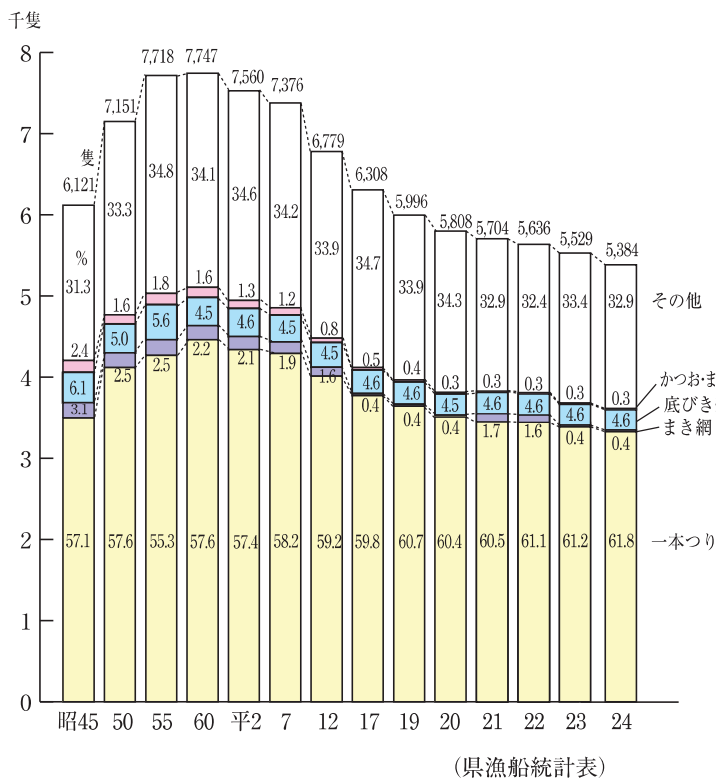
〔平20〕	全国	和歌山県	1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名
漁業経営体数	115,196	2,513	20	2.2	北海道 長崎 岩手
漁業就業者数(人)	221,908	3,922	22	1.8	北海道 長崎 青森

(2008年漁業センサス)

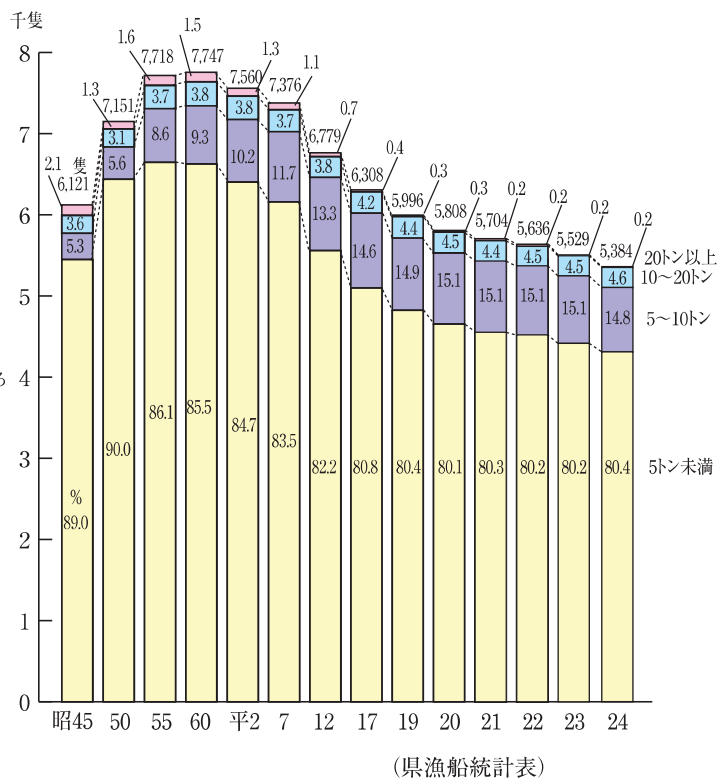
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成24年12月末日現在では5,384隻となっている。漁業種類別では「一本つり」が61.8%、「底びき網」4.6%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.4%と大半を占めている。

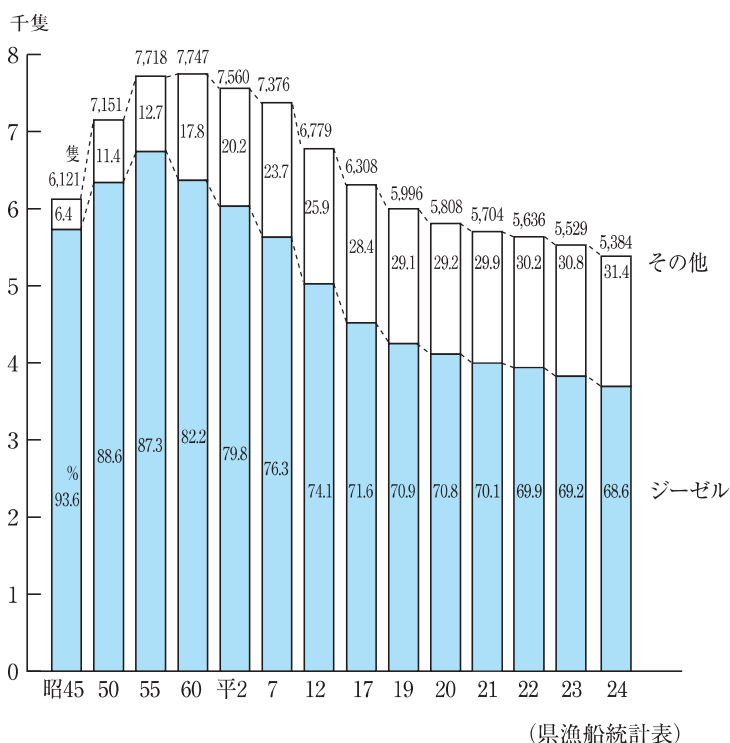
漁業種類別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種類別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,916港）の漁港と、121地区（全国4,226地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

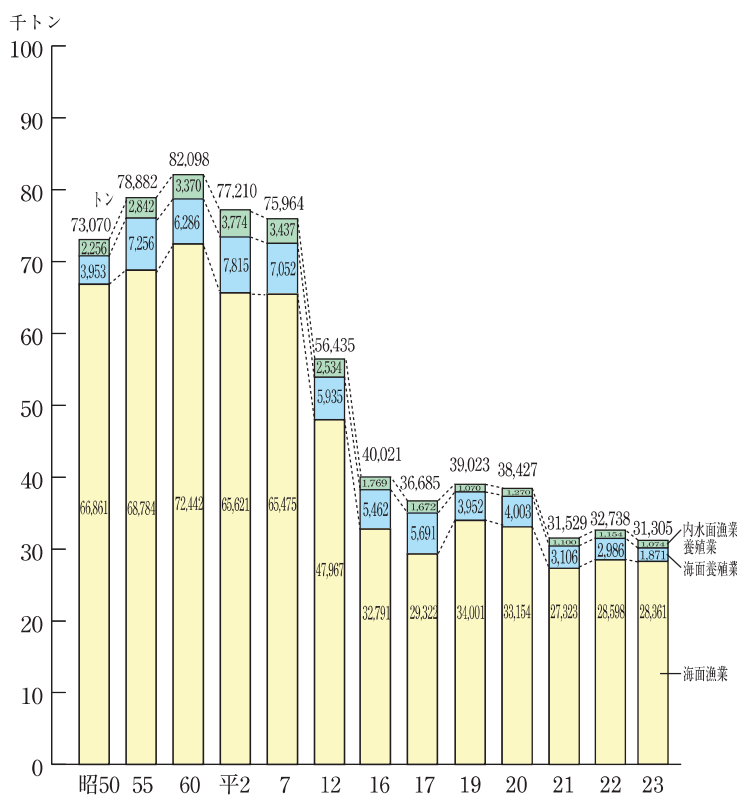
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3) 水産業の生産

漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108tをピークに減少傾向にあり、平成23年は31,305tとなっている。

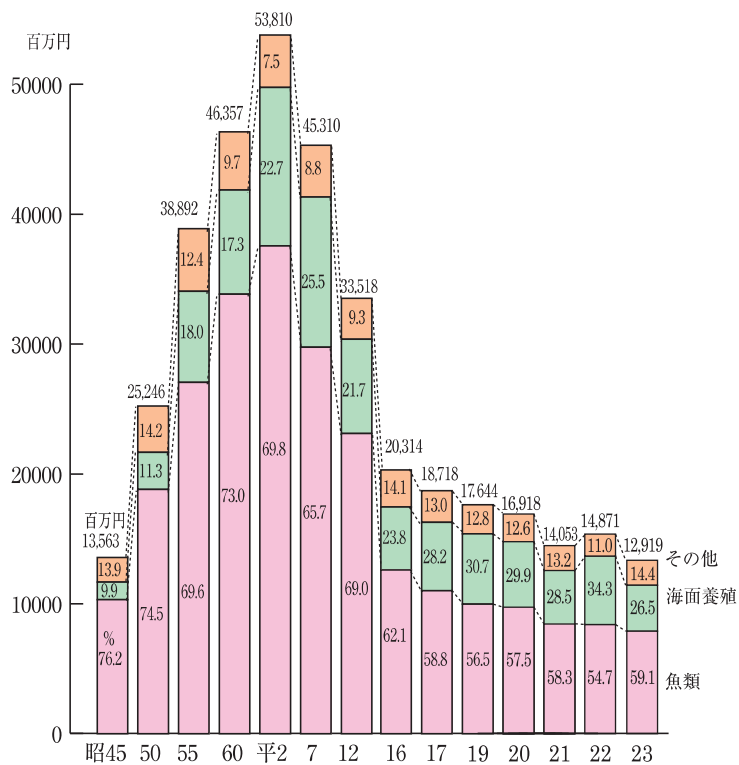
海面漁業・養殖業生産額は平成2年をピークに減少傾向で平成23年は129億19百万円でピーク時の24%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



(漁業・養殖業生産統計)

海面漁業・養殖業生産額の推移



(漁業・養殖業生産統計)

漁獲量

〔平23〕 (t)	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	3,823,144	28,361	27	0.74	北海道	長崎	静岡
魚類	2,918,802	25,956	26	0.89	北海道	長崎	静岡
えび・かに・いか・たこ	383,134	1,398	29	0.36	北海道	青森	長崎
貝類	378,916	91	35	0.02	北海道	愛知	三重
海藻類	87,779	652	13	0.74	北海道	愛知	青森
海面養殖業	868,720	1,871	26	0.22	北海道	広島	佐賀

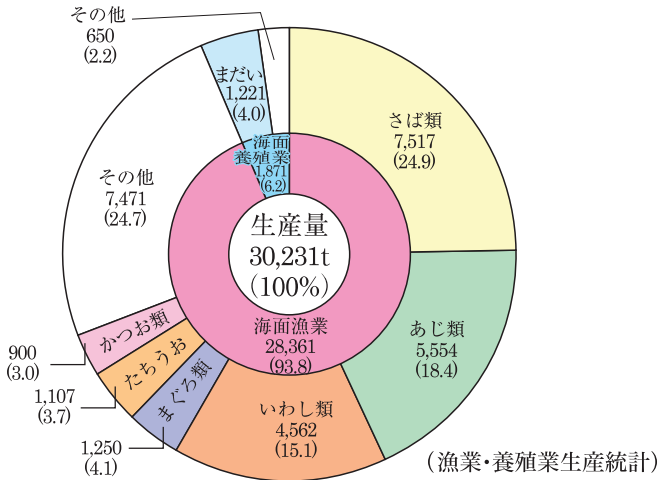
生産額

〔平23〕 (百万円)	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	939,211	9,492	26	1.01	北海道	長崎	静岡
海面養殖業	389,689	3,427	21	0.88	愛媛	鹿児島	北海道

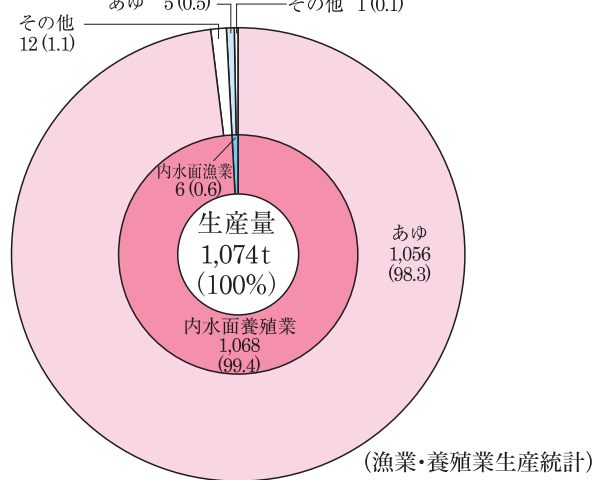
4) 主な魚種別漁獲量・生産額の推移

平成23年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類26.5%、あじ類19.6%、いわし類16.1%、まぐろ類4.4%となっている。海面養殖業ではまだいが65.3%を占め、内水面漁業・養殖業ではあゆが98.8%となっている。

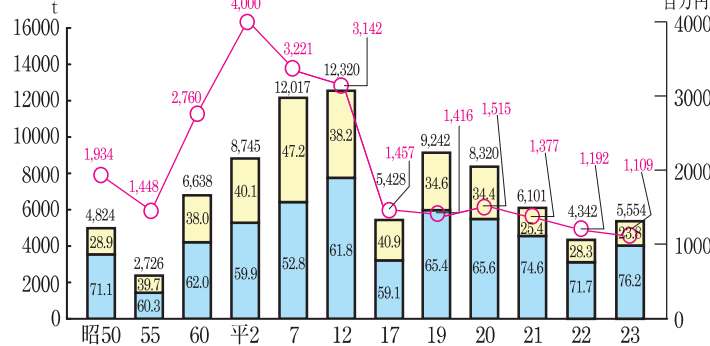
海面漁業、養殖業魚種別生産量 (平23)



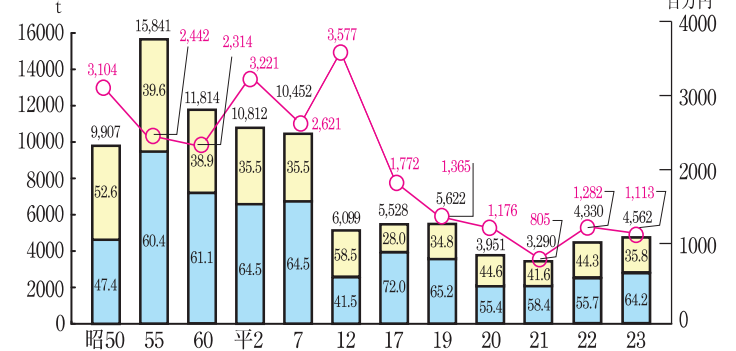
内水面漁業、養殖業魚種別生産量 (平23)



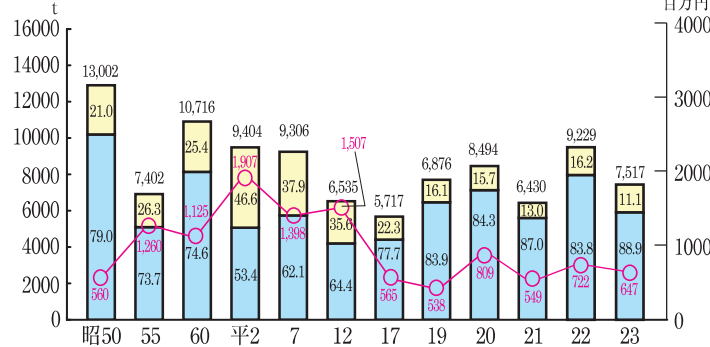
あじ類



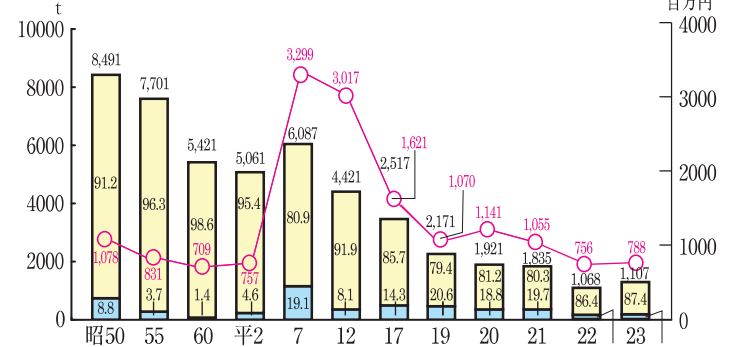
いわし類



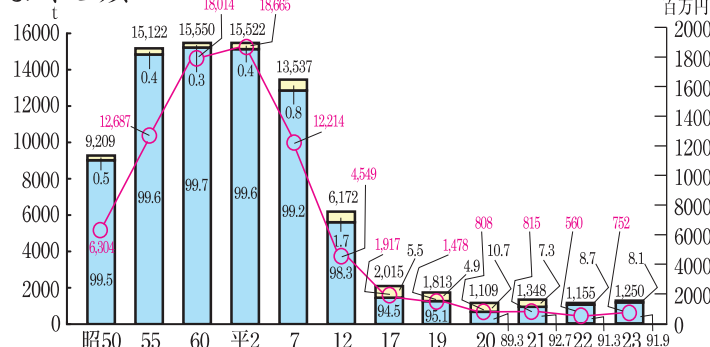
さば類



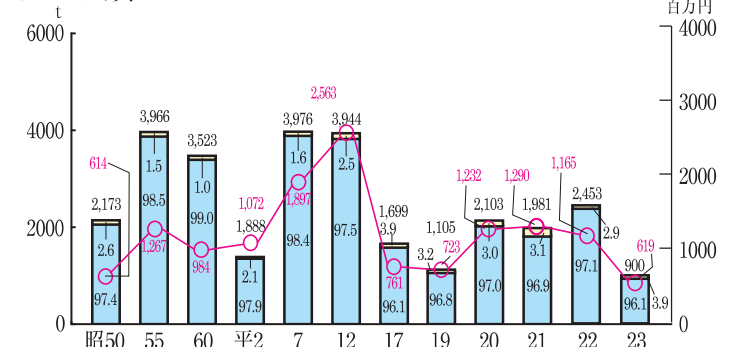
たちうお



まぐろ類



かつお類



漁獲量 瀬戸内海区 太平洋南区 生産金額(百万円) (漁業・養殖業生産統計)